

2023
秋号

発行日
令和5年10月1日
第57号

市町村紹介コーナー
加茂市
「中越エリア」

新潟県 建設技術 センターだより

Niigata Construction Technology Center

- 特集 02 市町村紹介コーナー 加茂市 04 発注者支援事業紹介
- 05 「研究助成事業」募集のご案内、第38回 雪シンポジウムin阿賀町
- センターINDEX 06 新試験室のご案内
- 07 雪のことば・雪のころ
- 08 編集後記 新潟の地酒巡り 吉乃川 新潟長岡で醸し続けて四七〇年



北越の小京都

市街中心部には加茂川、加茂駅から徒歩5分の場所には加茂山公園があるなど自然と一体となったまち。

水路にかかる水車、細い路地に並ぶ蔵は、京都のまちなみを思わせる風情です。



加茂市

Kamo

加茂市のプロフィール

面積 / 133.72km²

人口 / 24,862人(令和5年4月1日現在)

世帯数 / 10,120世帯(同上)

<https://www.city.kamo.niigata.jp/>

粟ヶ岳を水源として信濃川へと流れる加茂川。その加茂川沿いに広がる街は、京都の上賀茂神社・下鴨神社の分霊を祀る青海神社と六世紀後半に創建された長瀬神社があるなど、その風情から「北越の小京都」と呼ばれています。



加茂山公園

市街地に隣接する加茂山公園には、雪椿や桜が咲きほこり、全長144m、標高差32mのスライダーやリス園など、春から秋にかけて市民や近隣の子どもの憩いの場として親しまれています。

ユキツバキ

加茂市の花は「ユキツバキ」。加茂山公園は、その群生地として知られています。豪雪地帯に咲くツバキが一般的なものとは異なる種類とわかったのは昭和20年代のことです。積もった雪の下で耐えるユキツバキは、粘り強い県民性の象徴として昭和41年に新潟県の木として指定されました。



特産品



ルレクチエ

信濃川沿いは、桃・梨・ブドウなど果樹が作られています。初冬に食べごろを迎える西洋梨ルレクチエの産地としても知られています。

桐箆笥

加茂といえば「桐箆笥」。全国でも有数の生産地となっています。その桐箆笥は、江戸時代後期から製造が盛んになり、昭和51年に伝統的工芸品に指定されました。



秋・冬のみどころ



冬鳥越スキーガーデンには、県内最古の木造電車モハ1など懐かしい蒲原鉄道電車が静態保存されています。春から秋は直径20mの花壇と2,000本以上のバラ園、冬にはそりやスキー、スノーボードを楽しめるファミリーゲレンデとして人気です。近くにある日帰り温泉施設「加茂七谷温泉 美人の湯」でくつろぐのもお勧めです。

加茂のまつり



雪椿まつり

4月上旬～5月上旬、加茂山公園に咲く雪椿や桜を舞台にさまざまなイベントが行われます。今年初の試みとして雪椿のライトアップが行われました。



加茂まつり

5月21日に開催される青海神社春季祭礼は「乳母まつり」とも呼ばれ、生後一年くらいまでの子どもが御神幸に加わり、健やかな成長を願います。



越後加茂川夏祭り

8月14日の加茂川の河川敷で開催されます。目の前を流れ落ちる大ナイアガラ花火は見事な光の滝を見せてくれます。

春の風物詩



4月上旬から5月上旬まで、加茂川の葵橋から西宮橋の間で約500匹の鯉のぼりが元気に泳ぎます。手の届く距離で泳ぐ鯉に子どもたちは大喜びです。

秋の催し案内



大通り秋祭り:10月15日(日)、加茂桐箆笥まつり:10月13日(金)～15日(日)
第55回加茂市美術展(市展):11月3日(金・祝)～7日(火)
炭焼き体験:10月15日(日)、22日(日)、29日(日)、11月12日(日)、19日(日)



一般県道天神林上条線若宮町拡幅道路改良工事

工事概要

一般県道天神林上条線は、加茂市若宮町の一部区間において自然斜面により現況幅員が狭くなっていることから、車両のすれ違いが困難な状態となっています。また近隣には中学校があり通学路として使用していることから、交通安全面においても危険な状態となっています。このため円滑な車両通行の確保と歩行者の安全性向上を図るため、狭小区間の解消を目的とした道路改良工事です。

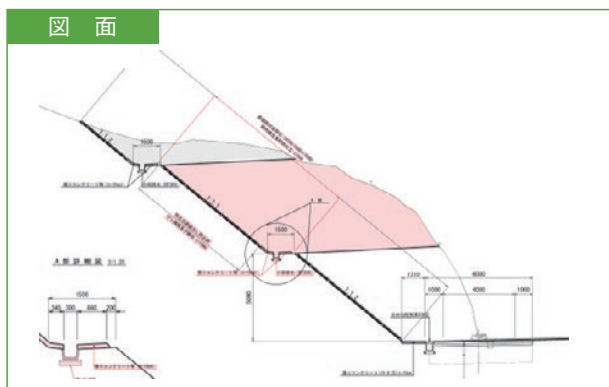
工事内容

工事名／ 令和4年度 地域基盤 第0023-31-00-01号
一般県道天神林上条線 若宮町拡幅 道路改良工事

工期／ 令和4年7月～令和5年7月

発注者／ 新潟県 三条地域振興局 地域整備部 道路課

工事内容／ ICT掘削工 V=1,000m³
簡易吹付法枠工 A=204m²



管理技術者 から一言

管理技術者 秋山 智宣

当該工事は、県道を拡幅するため斜面を掘削し法面保護工として、簡易吹付法枠工を設置する工事です。現場周辺の斜面は多くの表層崩壊が発生しており、複雑な地形であることからICT活用施工を計画しました。地上型レーザーキャナーを用いて3次元図化することで詳細な地形状況を把握し、ICT建機を使用して現場の安全性確保と作業期間の短縮を図ることで、梅雨入り前に現場施工を完了することができました。

今後も発注者支援業務を通じて地域の安全・安心と、地域社会の発展に貢献していきたいと思っております。

研究助成 事業

募集のご案内



令和6年度研究助成事業

助成申請受付開始!

新潟県が抱える地域特有の課題解決を図ることや地域活性化に資することなどを目的として、様々な調査研究、活動を行っている研究者及び団体等を支援する「研究助成事業」を実施しています。

当センターでは、この事業を通じて私たちが暮らす新潟県が実りある未来となるよう、「地域社会の安全・安心」と「地域社会の健全な発展」をキーワードに今後も幅広く地域に貢献していきたいと考えています。

令和5年11月1日(水)から令和6年1月11日(木)までを、令和6年度研究助成事業の募集期間としていますので、奮ってご応募下さい。

募集要項等の詳細は、当センターホームページをご覧ください。 <https://www.niigata-ctc.or.jp/jyoseijigyou/>

実績

(令和4年度募集、令和5年度助成)

調査研究(4件)

●新潟大学

- ・コンクリート構造物各部位の劣化リスク評価手法の開発に関する事業
- ・レーザーキャニングデータの深層学習によるコンクリート損傷の非破壊3次元検出法の開発

●新潟工科大学

- ・建築・都市における積雪偏分布の数値シミュレーションの社会実装に向けた開発・検証

●長岡技術科学大学

- ・3Dモデリング技術を利用した橋梁管理データベースの構築に関する事業

活動(7件)

●長岡工業高等専門学校

- ・市民向け建設業体験イベント「はしおし」の実施

●てらどまり若者会議～波音～

- ・寺泊地域の未活用地を活かした地域の魅力・暮らしの豊かさ創出事業(継続3年目)

●(特非)徳合ふるさとの会

- ・環境整備と野生動物との共生に関する事業(継続3年目)

●南魚沼環境・野外教育研究会

- ・地域住民による「学びの里山」整備事業(継続3年目)

●新潟工科大学

- ・柏崎市中通地区をモデルとした「関係人口の創出・拡大」事業(継続2年目)

●新潟農業・バイオ専門学校

- ・長岡市山古志地域における葛の利活用を通じた地域活性化を目指した活動

●新潟工科大学

- ・ささやかなコミュニケーションを創出する場を通じた地域コミュニティの変容に関する実証事業

今年度はこれらの取り組みを支援しています!



第38回 雪シンポジウム in 阿賀町

テーマ 『雪と共に山河の里に暮らす』～雪が降る。知恵が積もる。～



Agamachi
Japan

■日 時:令和5年11月7日(火) 13:30~17:05

■会場:阿賀町文化福社会館

■内容:基調講演、リレートーク

■主催:阿賀町、日本雪工学会上信越支部

■申込方法 参加申し込みフォームを利用:下記URLまたはQRコードからお申し込みください。

<https://www.town.aga.niigata.jp/cgi-bin/inquiry.php/28>

お問い合わせ

第38回 雪シンポジウムin阿賀町 実行委員会事務局(阿賀町まちづくり観光課内)

〒959-4495 新潟県東蒲原郡阿賀町津川580番地 TEL:0254-92-4766





新試験室が 完成しました(西館1F)

建物の老朽化に加えまして、より効率的な社屋へと建て替え事業を行ってきた新試験室(西館1F)が完成いたしました。令和5年1月10日より業務を開始しております。

これにともない事業全体の改善とさらなる効率化を図り、下越エリアのコンクリート強度試験、アスファルトの密度試験を長岡支所に集約いたしました。供試体の受け入れは従来通り新潟本所でも受け付けております。

コンクリート強度試験、アスファルトの密度試験

新潟本所への
供試体の持ち込みOK

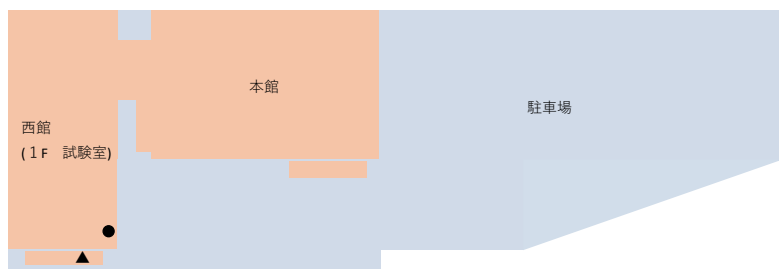
新潟本所での
試料返還の窓口受取OK

長岡試験場への
運搬費はかかりません

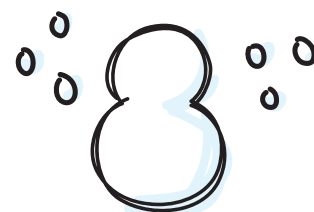
※長岡試験場への搬入の分、納期がかかります(通常納期+2~4営業日)

試験お申し込みのお客様へ

- ▲の入口(上部に受付看板あり)から
入って内線にて「試験部」をお呼び下さい
- が試料庫搬入口になります
(西館入口看板脇)



雪のことは・雪のころ



大雪災害を受けて検討されている冬期道路交通の課題解決メニュー

国立研究開発法人防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター 上石 勲

2022年新春号の「雪のことは・雪のころ」では2020～2021年の大雪を受けて設置された委員会での検討内容5項目①(対応力強化)、②(情報力強化)、③(予防力強化)、④(予測力強化)、⑤(基盤力強化)について紹介しました。

2023年春号に掲載しました、2022年12月の長岡柏崎地域での集中豪雪による大渋滞を受けて、国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所が中心となり、ネクスコ東日本新潟支社、新潟県、学識経験者を委員とした対策検討会が設置され、渋滞の実態と課題、今後の取り組みについて検討されました。第1回の検討会では、当面の対応として、人命を最優先に大規模な車両滞留を回避すべく、関係機関が緊密に連携し、出控え等の行動変容の呼びかけや高速道路と国道等の同時通行止めによる集中除雪などによる早期交通確保を図るなど当該地域における冬期道路交通確保に必要な取り組みをまとめています。

また、新たに降雪量の閾値による行動方針や、災害対策基本法の運用見直し、予防的通行規制区間の追加、各種情報提供及び出控え広報の強化、渋滞・車両滞留状況の把握とさらなる対応力向上に向けた取り組みなど行動計画の見直しも検討されました。第2回の検討会では、除雪能力を大幅に超える降雪への対応として、効果的な広域迂回に関する情報提供、除雪体制・監視体制の強化、迅速な除雪作業に向けた体制強化、気象予測精度向上による雪氷体制検討、交通障害の早期解消などの対策が検討されています。また渋滞状況把握のためのCCTVの増設や、さらなる対応力向上に向けて、簡易センサーの設置などの対応なども検討されています。

この他、最近の大雪で各種の対策を検討した新潟市や上越市を含め、私も参加させていただいた各種委員会・検討会での検討事項を、冬期道路交通の課題解決メニューとして私なりにまとめました。このような課題や対応の検討内容を俯瞰的に捉えることも含め、今後も各機関と協力して取り組んでいきたいと思っています。

冬期道路交通 課題解決のメニュー

- ① **新技術の用いた降雪・積雪状況の面的な把握**
レーダー、IoTセンサー、画像、AIなどを活用したより正確な降積雪状況を把握する技術開発
- ② **降雪予測の高精度化**
短時間の集中した降雪量を面的により精度高く予測する技術の開発
- ③ **出控えや除雪体制強化の基準となる「災害級の大雪」や「異常降雪」の基準値・閾値の設定**
住民や関係団体にも理解されやすい降積雪状況と道路状況などの社会状況、除雪能力などの条件設定方法の検討
- ④ **住民・道路利用者への情報提供**
除雪能力を超えた大雪の場合、地域住民や道路利用者の協力が必要
理解の得られる説明によりクレーム等の抑制にもつながることが期待
- ⑤ **雪の情報、データの蓄積と活用**
大雪の記録を残して、今後にかす雪のプラットフォームを構築し、うまく行かなかった対応だけでなく、良好に処理された事例も残すことにより、今後の対応も効率化。大雪では今回検討された施策が実施され、検証が繰り返されることにより、雪対策のPDCAサイクルが回るよう期待
- ⑥ **技術やノウハウの伝承**
研修、メタバースなどを通じて、高齢化が進む除雪オペレーターへの技術の伝承や、数年で転勤する職員への冬期道路管理のノウハウを伝承
- ⑦ **雪のBCP**
企業への雪による影響を軽減して事業活動の継続を計画的実施
物流業者だけでなく、活動に影響を与える企業等にも参画依頼

特集

新潟の地酒巡り

vol.27

全国的にも評価が高い新潟の清酒。
そのおいしさの秘密を紹介します。

長岡市の酒蔵

吉乃川

新潟長岡で醸し続けて四七〇年

吉乃川は、新潟県長岡市撰田屋の地で、1548年に創業した酒蔵です。原料米は地元の新潟県産にこだわり、蔵の敷地から汲み上げられる軟水「天下甘露泉」を仕込み水に、長年培った蔵人の伝統の技で誠実に丹精込めて醸されたお酒を皆様にお届けしております。



杜氏
藤野 正次



1.【吟醸 極上吉乃川】吉乃川代表銘柄の一つ。さわやかな香りとしゅるしゅるとした透明感のある口当たり。2.【純米大吟醸50 PAIR】新潟県産の酒造好適米で醸した純米大吟醸酒。さわやかで穏やかな吟醸香に、米の旨味のある味わいです。和洋どちらでも愉しめる1本。3.【みなも 爽彩純米】2019年誕生の新ブランド「みなも」シリーズから、冷酒で美味しい純米酒がコンセプト。穏やかでありながらフレッシュな彩りを感じる香りとさわやかな酸味。



吉乃川株式会社
〒940-1105
新潟県長岡市撰田屋4-8-12
TEL.0258-35-3000
FAX.0258-36-1107
<https://www.yosinogawa.co.jp>

新潟県最古の蔵元「吉乃川」の歴史

吉乃川の創業は天文十七年(1548年)で、上杉謙信の春日山入城と同じ年のこと。酒蔵としての歴史は新潟で最も古く、日本でも屈指の老舗です。

吉乃川のある長岡市撰田屋は、周りに味噌・醤油などの醸造蔵がある「醸造の町」として知られています。良質な水に恵まれたうえ、江戸時代を通じて天領としての利にもあずかったことで栄えてきた土地です。

地元の原料、長年培った技

吉乃川は「新潟県産米」にこだわった酒造りを買っています。その土地の米と水で酒を造ることこそ、地酒としての本質があると考えているからです。

旨みとキレを生み、やわらかな味わいを奏でる「五百万石」、すっきりとした後口とふくらみのある味わいを併せ持つ「越淡麗」は、いずれも吉乃川の酒に欠かすことのできない品種です。

仕込み水は敷地内の井戸から汲み上げられる地下水。「天下甘露泉」と名付けられた清冽な水の源は、長岡の背後を守る東山連峰の豊富な雪どけ水と雄大な信濃川の伏流水。ミネラルをバランスよく含む軟水で、酒質をやわらかい淡麗な味にします。

郷土がいかに上質な材料を揃えていても、それらを扱う蔵人の器量がなくてはうまい酒は造れません。四七〇年余りの歴史に裏付けされた「酒本来の味わいを持ちながら、キレのある淡麗な酒」は代々の杜氏が心血を注いだ技と熱意で受け継がれてきました。米と水は自然のもの。それら経験の積み重ねを頼りに時代に合わせて醸し続けています。

編集後記

猛烈な暑さを乗り切り、まだまだ夏の名残を感じつつも日の長さは随分と短くなってきました。今回の秋号では加茂市様と吉乃川株式会社様を特集させて頂きました。ご協力頂いた皆様には厚くお礼申し上げます。これからは過ごしやすい季節となりますので、お出かけの参考にして頂けたら幸いです。

これからも「新潟県建設技術センターだより」は地域の魅力や当センターの様々な情報を発信して参ります。お気軽にご意見、ご要望などお寄せ下さい。

今後ともよろしくお願いいたします。

編集委員 試験部 森田 真望子

